

成瀬小学校の体育館を基本的に1階に、 2階の場合は少なくとも1階からのスロープの設置を求める請願

【請願の要旨】

東日本大震災や能登半島地震等により、学校の避難所としての役割が大変重要になっています。学校の中でも体育館をできるだけ広くして、多くの人と一緒に助け合いながら過ごすことの大切さが、被災者等から語られてきました。

私も、東日本大震災の時は、出身地の岩手県の陸中海岸の避難所（小学校の体育館＝1階建て）に行き、中学生や高校生が自然に手伝っている姿を見たり、親戚から逃げる時の様子や身内が亡くなった話を聴いてきました。2011年3月11日当時人口19270人でしたが、死者824人・行方不明1人（認定死亡を申請していない）です。2025年9月24日、当時6歳の地元の女の子が津波で流されて行方不明になっていましたが、100km先の宮城県でDNA鑑定等で特定されました。家族は「遺骨を発見してくださった方に大変感謝しています」とコメントしました。

成瀬小学校の新校舎は、大洪水になった時は、1966年・1976年の過去に浸水した「浸水実績区域」ですし、避難しようとして向かうこと自体が危ないです。

「要求水準書」では、「体育館を2階にした場合・・・」として、体育館を1階にする選択肢も示していますが、成瀬小の「基本設計」（図面等）では、体育館は2階になっています。そして、1階から2階の体育館に行くスロープ也没有ありません。

エレベーターには、「地震の時はエレベーターを使わないでください」と明記してありますし、地震で被害が大きい場合は電源確保が難しく、長期にエレベーターが使えないこともあります。

「要求水準書」には、「体育館を2階にした場合、連携しやすい1階に、高齢者等が階段を使わずに避難可能な室を整備すること」としてあり、「基本設計」（図面等）ではこちらを選択していますが、避難は高齢者も含めて家族でしますし、車イスを使う肢体不自由の方々や高齢者がその室に固まって避難するというのは、（その中で助け合いはあると思いますが）動きがスムーズな人からの手伝いが受けにくく、不便ですし、管理上も安全確保が手薄になるように思われます。

車イスの肢体不自由の方々には、家族も見てるだけで精一杯で、手伝いが必要な時も、周りが同じような人ばかりでは、「お願いもできません」。

避難生活が長期になった場合は、同じ階にいれば、自然に小学校高学年・中学生・高校生等も、高齢者や車イスの肢体不自由の方々・家族に声をかけて、手伝ってくれると思います。高齢者も、小学生や中学生等の若い子どもたちと一緒にいた方が元気が出ます。

東日本大震災で、小学校の運動場の「仮設住宅」にいた従姉が、「毎日子どもの声が聞こえるので、気がまぎれる・元気が出る」と言っていました。

成瀬小の新校舎の敷地は、現在運動場より高くなっておりそのまま続きます。重要な避難場所になる体育館は、基本的に1階が適切です。体育館を2階にする場合、少なくとも1階からのスロープの設置が必要です。

子どもが大きく減少して昨年統合した新築の山田小学校は、児童数425人で（避難場所となる）体育館（1階建て）は1157㎡と広く、また海拔6メートルにある横浜市立の肢体特別支援学校では、東日本大震災の後に、命を守るために、併置の市立小学校へ「屋上避難」できる避難スロープを、新たに作りました。

【請願項目】・成瀬小学校の体育館を基本的に1階に、

2階の場合は少なくとも1階からのスロープの設置を求めます。